

## シンポジウム「イスラーム主義運動は中東政治に何をもたらしたのか：民主化・独裁・内戦」

### ■主旨

イスラーム主義運動は、中東各国の国内政治だけでなく、現下の国際政治の趨勢を左右する巨大なアクター（主体）となっています。その研究の多くは、イスラーム主義運動の思想や活動の実態解明や、その発生・発展・衰退の要因の分析に注力してきました。それらは、イスラーム主義運動とは何か、という学問的・社会的関心に応えることに成功してきたと言えます。

しかし、その一方で、イスラーム主義運動が現実の政治に何をもたらしたのか、という問いについては、各国の事例についての叙述的な研究が積み上げられてきたものの、その一般化・理論化はほとんど進んでいません。

このイスラーム主義運動をめぐる分析上のアポリアは、社会学と比較政治学のあいだの関心の違いと符合します。すなわち、社会学では、主に社会運動の発生要因の説明に終始し、その社会的・政治的な帰結についてはあまり関心が寄せられてきませんでした。他方、比較政治学においては、政党や軍などフォーマルなアクターを分析対象とする傾向が根強く、インフォーマルなアクターとしての社会運動の役割の重要性を認識しつつも、その意義についての理論化の取り組みはまだ始まったばかりです。

こうした問題意識に基づき、本シンポジウムでは、イスラーム主義運動の政治的帰結に関する一般化・理論化を射程に入れながらも、さしあたり、各国の事例を比較することで、いかなる帰結があり得るのかについて、相違点と共通点を浮き彫りにしてみたいと思います。

### ■日時・会場

- ・ 日時：2017年1月7日（土）13:30～18:00
- ・ 会場：立命館大学衣笠キャンパス・創思館 1F カンファレンスルーム  
(定員 140 名、登録不要・参加費無料)

<http://www.ritsumei.ac.jp/accessmap/kinugasa/>

<http://www.ritsumei.ac.jp/campusmap/kinugasa/>

### ■スケジュール（敬称略）

- |             |   |
|-------------|---|
| 13:00       | 開場  |
| 13:30-13:50 | 「なぜ「帰結」なのか？：社会運動を説明する、社会運動で説明する」<br>(末近浩太・立命館大学国際関係学部・教授)                     |
| 13:50-14:20 | 「エジプトにおけるムスリム同胞団の「挫折」と権威主義体制の再構築」<br>(横田貴之・明治大学情報コミュニケーション学部・准教授)             |
| 14:20-14:50 | 「封じ込められる社会運動：なぜヨルダン「民主化」はムスリム同胞団の不利益となるのか」<br>(吉川卓郎・立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・准教授) |
| 14:50-15:05 | 質疑応答①   |
| 15:05-15:20 | 休憩  |
| 15:20-15:50 | 「シリア紛争：「反体制派」のイスラーム化からイスラーム過激派の台頭まで」<br>(高岡豊・公益財団法人中東調査会・上席研究員)               |
| 15:50-16:20 | 「レバノン・ヒズブッラーによるシリア紛争への軍事介入」<br>(末近浩太・立命館大学国際関係学部・教授)                          |
| 16:20-16:35 | 質疑応答②   |

- 16:35-17:15      ディスカッション①（ディスカッサント）  
北澤義之・京都産業大学外国語学部・教授  
溝渕正季・名古屋商科大学経済学部・准教授
- 17:15-17:30      ディスカッション②（フロア）

■主催

- ・ 科学研究費補助金・基盤研究（B）（海外学術調査）「現代中東におけるイスラーム主義運動の動向と政治的帰結に関する比較理論研究」（研究代表者：末近浩太）

■共催

- ・ 科学研究費補助金・基盤研究（B）（海外学術調査）「中東と中南米における体制転換の実証的比較研究：政党・軍・市民社会」（研究代表者：末近浩太）
- ・ 科学研究費補助金・新学術領域研究（研究領域提案型）「グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて」（領域代表者：酒井啓子）、計画研究 B02「越境的非国家ネットワーク：国家破綻と紛争」（計画研究代表者：末近浩太）
- ・ 立命館グローバル・イノベーション研究機構（R-GIRO）研究プログラム「オール立命館による学際統合型平和研究拠点」（研究代表者：本名純）

■本シンポジウムに関するお問い合わせ先

立命館大学国際関係学部・末近研究室

[suechika@ir.ritsumei.ac.jp](mailto:suechika@ir.ritsumei.ac.jp)